

外傷救急処置演習		演習	准教授 古川 慎太郎 講師 清家 洋 講師 田口 弘茂	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野	科目ナンバリング	13391202	

1. 授業のねらい・概要

本授業は、救急救命士の資格を取得するために必要な観察結果に基づく判断及び救急救命処置の理解を目的とした演習を行う。また、外力により身体が器質的、機能的な障害により損傷した部位の観察・判断・処置要領の修得を目的とする。

2. 授業の進め方

救急救命処置に関する知識と技術を確実に修得させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。また、座学を並行して行い、演習に必要な知識の修得を図る。

3. 授業計画

1. 脳卒中 脳卒中を疑う傷病者を対応するために必要な知識(観察・処置・判断)について理解する。	16. 第1回～15回までのまとめ筆記試験を行う。
2. 呼吸器、循環器疾患 呼吸器・循環器疾患を疑う傷病者を対応するために必要な知識(観察・処置・判断)について理解する。	17. 外傷活動 状況評価, 初期評価, 必要な処置についての理解を深める。
3. 消化器疾患 消化器疾患を疑う傷病者を対応するために必要な知識(観察・処置・判断)について理解する。	18. 外傷活動 状況評価, 初期評価, 必要な処置を習得する。
4. 虚血, うっ血 観察の方法について理解する。	19. 外傷活動 ネックカラー・全身観察についての理解を深める。
5. 救急隊活動 内因性傷病者への救急隊活動を理解する。	20. 外傷活動 ネックカラーの使用・全身観察を習得する。
6. 救急隊活動 内因性傷病者の緊急度重症度判断を理解する。	21. 外傷活動 バックボード, スクープストレッチャーによる全身固定について理解を深める。
7. 局所の観察 皮膚・頭部・顔面・頸部の観察を理解し実践できる。	22. 外傷活動 バックボード, スクープストレッチャーによる全身固定を習得する。
8. 局所の観察 胸部・背部の観察を理解し実践できる。	23. 外傷活動 状況評価から全身固定(情報収集含む)までの一連の流れについて理解を深める。
9. 局所の観察 腹部の観察を理解し実践できる。	24. 外傷活動 状況評価から全身固定(情報収集含む)までの一連の流れを習得する。
10. 局所の観察 鼠径部・会陰部・骨盤・四肢・手指・足・爪の観察を理解し実践できる。	25. 外傷活動 車外救出について理解を深める。
11. 救急隊活動 内因性傷病者へのアプローチについて班活動を行う。	26. 外傷活動 車外救出を習得する。
12. 観察・処置・判断 体位管理, 保温管理, 情報収集と病院連絡について習得する。	27. 外傷活動 外傷傷病者に対する一連の活動を習得する。
13. 救急隊活動 内因性傷病者に対する一連の活動を習得する。	28. 外傷活動 外傷傷病者に対する一連の活動を習得する。
14. 救急隊活動 内因性傷病者に対する一連の活動を習得する。	29. 第17回～28回までのまとめ実技確認試験
	30. 第18回～28回までの筆記試験

15. 第1回～第14回までのまとめ実技確認試験を行う。	
------------------------------	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週3時間以上を要する。実技については、次の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ、次の授業時に提出しフィードバックを行う。

2) 課題

- a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
- b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) JPTEC における病院前外傷処置要領を修得し、説明ができる。
- 2) PSLS・PEMEC における病院前活動要領を習得し、説明ができる。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

1) 成績評価項目

- a) 事前の授業の準備と理解の評価
- b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
- c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
- d) 講義内容の理解度を試験で検討

2) 成績評価の方法

- a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
- b) 実技試験
 - イ) 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 可否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ) 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
- c) 筆記試験（80%）
 - イ) 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ) 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の 60%以上を合格とする。
 - ニ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ) 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて1回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ) 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
改訂6版 救急蘇生法の指針 2020 市民用・解説編(へるす出版)
改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック(へるす出版)
PSLS ガイドブック 2015(へるす出版)
PEMEC ガイドブック 2023(へるす出版)

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 3) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色のTシャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髮、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材（腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル）、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。